

大崎市立岩出山小学校自主公開研究会シンポジウム「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災教育」で講演しました(2015/11/24)

テーマ：防災教育，学校と地域との連携

場所：大崎市岩出山文化会館（スコーレハウス）大ホール

11月24日（火）、大崎市立岩出山小学校において、「自ら考え判断し、行動できる児童の育成」を研究主題とした防災教育に関する自主公開研究会（授業公開）が午前、開催されました。岩出山小学校は、平成26・27年度の「みやぎ防災教育推進協力校事業」として宮城県教育委員会から指定を受けているモデル校の一つとなっています。また、午後は大崎市岩出山文化会館（スコーレハウス）に会場を移し、午前中に公開された授業内容に関する学年別分科会と全体会での協議を行い、最後に「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災教育」をテーマとしたシンポジウムが行われました。当日は大崎市内の小中学校で防災教育を担当する教員を中心に、宮城県内外から合わせて約150名の教員が参加しました。

シンポジウムでは、パネリストの一人として当研究所の佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）が「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災教育に向けて」と題して講演を行いました。講演では、地域に根差した防災教育の実践事例の紹介や、地域に根差した教育実践を支援するための地域の教育力の重要性などが指摘されました。また、岩出山小学校の防災主幹教諭からは、地域に根差した学習材で構成した学校独自の防災教育のための副読本教材も紹介され、防災教育の成果と課題について、情報共有や共通理解を得る貴重な機会となりました。

岩出山小学校での「みやぎ防災教育推進協力校事業」の実践にあたっては、「学校・地域防災連絡会」を設置し、学校と地域とが連携した学校防災の取り組みを展開してきました。今後、学校と家庭・地域とが連携した地域ぐるみの防災教育が全国的に展開していくにあたり、大崎市立岩出山小学校が開発した地域に根差した防災教育教材や、岩出山小学校の「学校・地域防災委員会」のような枠組みは、他の参考となる好事例の一つと言えます。



全体会の来賓席



シンポジウムのようす

文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）